

◆久松久子 選 ～八木健の百句集より～

これほどたくさんのお俳句を作ってみせてくれる主宰は他に誰もいません。何を見ても句にする気持ち、その中から滑稽をつまみ出す感性に感服します。啖呵を切るように潔く心地よい句、小さな生き物への心くばりのある句、どれも楽しいです。

色にも温度ストーブの火が赤い

ストーブの炎が青かったら、寒いでしょうね。

羅でラッピングされ令夫人

ラッピングとは正にそんな感じ。令夫人が効いています。

威銃村いちばんの空威張り

空威張りが決まり、雀に当たった例なし。

蛙てふ文字蛙の字に潜む

蛙は田んぼの土の中から生まれるのでしょうか。この頃は蛙もコンクリートになってしまいましたが、負けずに跳び越えてもらいたいです。

カレー派と寿司派で揉める子どもの日

今は断然、寿司派が主流です。回転寿司では横目できょろきょろしています。

完璧な音程うぐいす鳴き終はる

うぐいすだって初めは赤ちゃんで上手く鳴けない。音程が整って一人前。もしかしたら、ドスの効いた鳴き声というものもあるかも。

切り分けて西瓜の塔に種の窓

食べやすく三角に切るのでしょうか、誰がこの切り方を考えたのでしょうか。台湾に行った時も同じ型でしたが、世界中同じかもしれません。

口づけのあとは叩かれ紙風船

「口づけ」と発想できるとはお若いですねえ。孫が小さい頃に紙風船をふくらませてあげたら、大事に大事に持って、一句作ってくれました。「おばあちゃ

んの息大切に紙風船」。ところが、その子の妹の面倒に手をとられていると、それを見た孫は紙風船をペしゃんこにつぶしてしまいました。

#### 窮屈をものともせずに紙魚の恋

紙魚は本のわずかな隙間に生きて、動くことも息をするのもままならないでしょう。そんな紙魚も一句になるのですね。

#### 木枯の使ふ楽器が虎落笛

正に木枯の楽器です。鼓弓の音色のようです。

#### 爺爺爺爺爺眠眠眠眠眠と蟬

蟬は地上に出て三日の命ということは、出て来た時にはもうお爺さんなのでしょう。眠い眠いと言いながら死んでゆくのです。人間も私くらいの齢になりますと居眠りばかりして、このまま永久に眠ってしまうんじゃないかと思ってしまう。目の付け所がお手柄の一句です。

#### 紙魚と生れ大言海を泳ぎゐる

大槻文彦先生の辞書を読み尽くしている紙魚は、東大も受かるに違いありません。魚と海もうまくつながりましたね。

#### ジャンケンの三極どれもチョキを出し

三極の特徴を楽しい句に仕立てられました。三極で出来た紙は、チョキの缺で切られますね。

#### 皺がつきやすくて好きさ麻の服

昔は、麻服は高級品として扱われ、紳士しか着られなかったのですが、皺が嫌われて今は一流ホテルのテーブル掛けかナプキンにしか売れないようです。亡夫が麻製品を作る会社に勤めていましたので、夫の嘆きが懐かしいです。

#### パジャマにはシルクがよろし夏は絹

♪うの花のにはほふ垣根に～♪の唱歌「夏は来ぬ」と掛けた面白さ。

#### 頬杖の何本も要る春愁

悩みも不安も次から次に尽きません。二本では足りませんね。

#### とっくりのセーター首っ丈に編む

首っ丈と云う愛情の表現がぴったり。編物は一目一目と進んで行くからこそ心が籠るのです。私も新婚の頃、模様編を入れたセーターを編み上げ、主人に渡しました。すると主人がひと言、「こんなの着られるか」。腹が立ち、弟にくれてしまいました。今思えば、照れくさかったのでしょうか。

#### カンカンは太陽のこと夏帽子

カンカン帽は、一昔前の紳士の間で流行しました。八木先生のお好きなスタイル。テレビで先生がカンカン帽をかぶって居られるのを拝見した覚えがあります。あの時は、太陽の光を遮るのじゃなく、頭のとっぺんの光を想像してしまいました。カンカン怒られてしまいますね。

#### 肘張ってこの池を出ずあめんぼう

肘張って強がっているところを揶揄しているようで憐れんでいる句。人間だって空威張りのあめんぼう男、あめんぼう女もいますね。